

# 本立道生<sup>※</sup>

対談 中国経営トップのリーダーシップストーリー 第17回

## 信用は無形の財産なり

税理士法人山田&パートナーズ 海外事業部長 パートナー／税理士 春田憲重 氏  
 税理士 大城昭仁 氏  
 インヴィニオアジアホールディングス代表取締役CEO  
 インヴィニオCHINA総経理

### 春田 憲重 氏 × 大城 昭仁

※『君子務本、本立而道生』（「論語」学而篇）。君子は本を務む。本立って道生ず。立派な人は根本的な事柄を大切にす。それかしっかりしてこそ、初めて各々の進むべき道が見えてくるものであるという意味。

ウソつかない、逃げない、  
望まれた以上の仕事を返す

大城 本日は、春田さんの経営者としてのお考えを伺い、中国で奮闘する読者の方々が一読者としてのヒントに出来ればと思っております。まずは、春田さんの座右の

銘と申しますか、大事にされている言葉を教えてください。

春田 「信用は無形の財産なり」という言葉を大事にしています。これは、祖父から父、私へと伝えられてきた家訓のような言葉なのですが、この事務所に入ってから、それをより強く意識するようになりました。

大城 深みのある言葉ですね。詳しく聞かせて下さい。

春田 まず、大前提としてウソをつかない。そして、任されたら、なんとかしてそれに応える。決して逃げない。さらには、来た仕事は、必ず望まれた以上のものを返す。信用は、そういうことできてくると考えています。税理士の仕事は、受け身になりが

ちなところがあるのですが、仕事を来た、やった、終わり、それでは本当の信用は築けない。お客さまは、どういう背景でお願いされたのか？

本当は何を求めているのか？ を深く考えなければなりません。

大城 それは分かっているにもかかわらず難しいですね。

春田 そうなんです。私、実は、この事務所に入ってから人格が変わったと思うんです。元々は、結構お調子者だったのですが、深くしっかり考えるようになりました。それは、弊社の創業者兼会長の山田、会計業界ではカリスマといわれる人ですが、彼が人間教育というものに力を入れていて、厳しく指導して下さいました。会計士や税理士は、世間で「先生」と言われますし、私も資格をとった時は、少し調子に乗っていたかもしれませんが、山田から「それではただのピエロだぞ。資格をとって、これからスタートじゃないか」と言われて、衝撃を受けました。以来、彼を信じて、とにかく素直に聞いてやってきた。今考えると、それは、自分にとってとても良かったと思います。

### 切り拓くための信用 AIに飲まれない対人感受性

大城 新たな拠点やビジネス領域を切り拓く仕事をやってこられてますね。税理士としては異色な経歴と思いますが……

春田 入所してしばらくして、法人部というところに配属になり、当時はまだ新しかった医療関連や相続、IPOに関する業務に従事しました。今考えれば、この頃に分らないことばかりやった経験が、のちのち生きています。その後、弊社としては初めての地方事務所となる、名古屋事務所の起ち上げに従事しました。そして、2011年から中国に来て、現地の税理士事務所研修を行い、13年に現地法人を立ち上げました。

大城 今、御社は各地に事務所を展開されていますが、その最初の型を作られたと言うことですね。素晴らしいです。読者の中にも事業起ち上げをされている方が多いと思いますが、春田さんが考える、起ち上げの重要な要素は何ですか？

春田 それも、やはり信用ですね。法人部で未経験のことを歯を食いしばってやった。そして、名古屋事務所の起ち上げで、大変なことが、たくさんありましたが逃げなかった。その信用があつて、中国が私に任せられたのだと思っています。だから、中国に来たばかりの時にも、この新しい土地でとにかく信用を築こうと考えました。現地事務所研修を兼ねて働いていたのですが、新人のもりでいようと心がけました。それまで、いろいろなことを身につけてきた自負はありましたが、独りよがりのプライドなんて何の役にもたちませ

ん。アウェイの地では、まずは懐に入るのだと思います。なんとかして、可愛がられよう、懐に飛び込もう、とにかくそう思っていました。

大城 なるほど。信頼の積み重ねがチャレンジの機会を作ってくれると。

春田 これからはAIの時代にもなつてきますし、ただ税理士だから、資格を持っているからということだけでは仕事は小さくなる一方です。でも、相手の背景まで考える対人感受性をもって、経営周りの新たな知識を積極的に身につけて、好奇心を持ってチャレンジを続ければ、この仕事は、自信を持って人にお薦めできるキラキラした仕事になっていくと思うんですね。そういう税理士のあり方を、考えていきたいと思つています。

### まず懐に飛び込もう

大城 最後に、読者の皆さん、中国で活躍したいと思つている若手から、経営者の方々、前向きなビジネスパーソンを想定していますが、そういう方々に、元気が出る一言を頂けませんか？

春田 中国は日本から距離も近く、関係を切ろうとしても切ることのできない国です。ダイナミックで日本では味わえない、一生に関わっていくような体験が起こる国です。まずは、懐に飛び込んでみてはどうでしょうか。中国人を理解し、受け入れて、踏み込んでみると、そこには、日本では見られない、見たこともない景色が広がっていると思つています。

大城 本日はありがとうございます。



大城 昭仁  
 インヴィニオアジアホールディングス  
 代表取締役 CEO  
 インヴィニオCHINA 総経理

野村證券、独立系投資会社を経て、2004年にインヴィニオ入社。100社を超える上場企業において、次世代リーダーの育成、営業組織のパフォーマンス向上、組織のベクトル統合などのプロジェクトを主導。11年よりインヴィニオチャイナ専任取締役CEO、16年より現職。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員(CIMA)、国際公認投資アナリスト協会(CIIA)。上海市浦东新区外商投資企業協会常務理事。中国の大手研修雑誌の理事も務める。

### INVENIO CHINA

Discover the Potential for Leadership

英必諾企業管理諮詢(上海)  
 (インヴィニオチャイナ)

1997年にマッキンゼーのOBによって設立。経営的視点から、人材育成、企業文化の変革や理念の浸透に取り組んでいる。研修やワークショップ、オフサイトミーティングの場を使い、組織・人材の潜在力をEduce=引き出して顕在化させる独自の手法に強みを持つ。

■上海市徐匯区天平路320弄25号  
 ☎021-6437-0001  
 ①http://www.invenio.cn/  
 ②infochina@invenio.jp